

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽) / 森 正

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

昨年度は科目改正の際に「芸術表現」を入れていただけるようにパブリックコメントを作成したが、今年度はこれまでピアノの実技指導及び演奏に関して科研費獲得の実績のある他大学の先生方に科研費申請に関して様子を聞き、自分の研究分野でどのような申請が可能であるのかを検討する。

2. 点検・評価

ピアノの実技指導に関する科学研究費の申請経験がある他大学の先生方にメール、電話でその状況をうかがった。また香川大学でピアノを担当されている柳井修教授と「音楽力育成を目的とするアンサンブル能力の開発」をテーマに科学研究費の獲得を目指したが結果は不採用であった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

これまでの入試においてピアノを専門とする学生を進学させてきた宮崎大学、岡山大学、大阪音楽大学のピアノ担当の先生方とは、学生の様子を報告する等、密な連絡関係を維持し今後の本学大学院への進学を学部生に勧めていただく。また卒業研究を指導する4年生の学部生に対して、大学院進学の意義を説明し受験を勧める。

2. 点検・評価

他大学でピアノの実技指導をされている先生方に本学大学院の説明を行い、その結果倉敷作陽音楽大学、及び高知大学からの学生が前期入試を受験し合格した。また、後期入試に向けて広報活動を行ない、その結果甲南女子大学、徳島文理大学から合計3名の学生を確保した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

3年生5名、4年生4名の卒業研究を指導する学部生については、コースの主催する学内演奏会に出演させるなど、卒業研究に向けた準備を円滑に進めさせると同時に、教員採用試験や大学院受験を含め、卒業後の進路に関して積極的な指導を行う。

課題研究を受け持つ4名の大学院生については、教員採用試験を受験することを希望する場合は、その試験に向けての準備状況等の把握に努め、適宜必要なアドバイスができるようにする。

また初等音楽1では、特に長期履修の大学院生に対して教職キャリア支援センターのピアノ実技指導との連携に関して検討し、可能な限り有効となる指導が出来る体制を考える。

2. 点検・評価

4年生の卒業研究を指導する学生4名を、7月と12月の2回の学内演奏会に出演させ、卒業演奏試験に向けての準備として成果を上げることができた。また、4名の4年生のうち徳島県小学校が1名、神戸市中学校音楽が1名、川崎市小学校に1名が合格し、残りの1名についても、4月から徳島県内の臨時教員として活動を始めた。課題研究を受け持つ4名の学生のうち2名が教職に就くことを希望しており、その学生達には教員採用試験に向けてのアドバイスをを行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

1. 小林莩子元教授と、ベートーヴェンおよびシューベルトの作品を中心に、室内楽の演奏方法に関する共同研究を行い、その成果を10月に大阪で行う演奏会で発表する。

2. ベートーヴェン、ブラームス、シューマンのピアノ独奏作品の演奏方法に関する研究を行い、徳島と東京で行うリサイタルでその成果を発表する。

3. ピアノの実技指導において、「比喩」を使用することが学生に対してどのように有益であるかを研究し、より一層学生にとって有益な指導ができるようにする。

2. 点検・評価

1、小林莩子元教授との室内楽の演奏方法に関する研究を行い、10月28日に大阪で行なわれた演奏会でその成果を発表した。

2、ベートーヴェンとブラームス、シューマンのピアノ作品に関する研究を行い、ベートーヴェンとブラームスの作品については、9月に渡独しデットモルト音楽大学のProf.F.W.Schnurrのもとで研鑽を積んだ。その成果は12月22日に東京で行なわれた演奏会において発表した。

3、ピアノの実技指導における「比喩」の有用性について、「鳴門教育大学研究紀要」第28巻に発表した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

これまで本コースでは、ひとりの教員が学部教務委員と大学院入試委員を兼ねることはなかったが、コースの人員の都合から、平成24年度はこのふたつを兼務することになった。どちらも大学の日々の運営と密接に関係があり、また学生の日常に深く係ることから、このふたつの委員の仕事に対し責任を果たせるよう活動する。

2. 点検・評価

学部教務委員及び大学院入試委員として、校務に努め、また2つの委員会におけるワーキンググループのメンバーとしての職務も果たした。さらに全学的に行なわれる「大学機関別認証評価に係るWG」と「カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会」においても、構成員として活動した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校においては、ロングホームルーム等の時間を使い、大学院生との演奏(ピアノ連弾)を聴かせ、実際の演奏に触れる機会を提供する。

社会においては財団法人日本ピアノ教育連盟や、財団法人三重県文化振興事業団の主催するコンクールやオーディション等の活動を通して、小・中・高校生のピアノ演奏に関する技術を向上させ、適切な音楽文化の発展に寄与する。

2. 点検・評価

11月に附属中学校で行なわれた、LFタイムにおける大学院生による演奏会について指導し、また演奏会の運営方法に関しても助言した。社会においては、財団法人三重県文化振興事業団の主催するコンクールと、公益財団法人「日本ピアノ教育連盟」の主催するショパンをテーマとしたオーディションにおいて、小・中・高校生のピアノ演奏に関する技術を向上させ、適切な音楽文化の発展に寄与した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)